

日点委通信

No.25

2009年10月1日発行

日盲委との共催で点字ビッグイベント開催

6点点字を考案し、盲人の教育・文化・福祉の向上に大きく貢献したルイ・ブライユの生誕200年と、その点字を日本語に翻案した石川倉次の生誕150年とを記念し、今日の点字の充実・発展を祝うとともに、視覚障害者にとっての点字の重要性を広報し、点字についての理解を広げ、点字の普及を目的とした点字ビッグイベントを日本盲人福祉委員会（日盲委）と日本点字委員会との共催で開催する。期日は2009年10月31日と11月1日の2日間、会場は東京都新宿区の戸山サンライズ（2階）。

メインの記念式典（表彰式及び記念講演を含む）は11月1日の13時～15時。式典に先立つ10月31日の13時半～14時は点字競技会（聞き書きと写し書き）、14時～15時は日本点字委員会顧問・阿佐博氏の記念講演（「ルイ・ブライユと石川倉次」）、11月1日の午前中は速読みの点字競技会といった日程が予定されている。記念式典内での講演会の講師は、点字毎日が主催しているオンキョー点字作文コンクールの審査委員長・藤本義一氏。表彰式では、イベント当日に行う点字競技会での優秀成績者の表彰と並んで、事前に募集する記念作文コンクールの優秀作品の表彰も併せて行う。

記念作文コンクールは、全国の盲学校小学部3年～6年の児童並びに盲学校と交流のある小学校の3年～6年の児童から2009年5月1日～9月15日の期間に「点字と私」をテーマとする作文（2000字以内）を募集して実施することになっている。

そのほか、点字についての各種史料等の展示は、会場2階の中研修室で10月31日の13時から11月1日の15時まで行われている（入場無料）。

11月1日の点字競技会が行われる2階大中会議室では、小西信八作詞、小山作之助作曲の「ルイ・ブライユと石川倉次を讃える歌」の披露と歌唱指導が行われる。

なお、発展途上国における点字の普及を目的とする点字器や点字用紙などの寄贈を推進する支援活動も記念事業の一つとして実施している。

日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、2009年6月6日・7日の両日、京都市北区の京都ライトハウス及び上京区のザ・パレスサイドホテルにおいて、第45回総会を開催し次の事項を協議した。

1. 『日本点字表記法』における表記符号の用法についての問題点と改訂に向けての提案

第44回総会における近畿点字研究会からの標記の提案を受けて、東北点字研究会・関東小委員会・関東地区点字研究会から検討結果の報告があった。「カギ・カッコの用法を見直す」「行移しの許容」の2項目の提案については賛同を得たが、他の6項目の提案については現行規定を可とする検討結果であった。なお、上記の2項目と「見出しのページまたぎを禁止する」提案の3項目について、近畿点字研究会から修正再提案があり、協議の結果継続審議事項となった。

2. 『日本点字表記法』における書き方の形式に関する問題提起

近畿点字研究会から『日本点字表記法 2001年版』における書き方の形式について、脚本・対話などの表記、手紙、表、出納簿、目次、欄外見出し、注項目の追加、索引、図や地図などの9項目についての提案があり、各地域での検討課題とした。

3. 漢字や仮名で書き表された単位の切れ続きについて

「日本の点字 第32号」に検討案として公開してから事務局に寄せられた意見等はなかったため、検討案は確定したものとして、今後の取り扱いについて協議した。

4. 医学用語の切れ続きの指針

医学用語点字表記専門委員会から、創設以来8回にわたる委員会での審議結果の中間報告があった。医学用語の切れ続きを、(1)副次的な意味の成分の切れ続き、(2)自立可能な意味の成分の切れ続き、(3)自立可能な意味の成分に準ずる漢語的表現の切れ続きに分け、『日本点字表記法』の規定に基づいて指針として整理されている。

5. 日本点字委員会委員の定員増について

点字表記の体系化と普及に向けて、より広く意見を徴すべく、盲教育界代表委員及び盲人福祉界代表委員をそれぞれ1名増加し8名ずつとすることにした。

6. 点字ビッグイベントの開催について

日本盲人福祉委員会との共催で、2009年10月31日と11月1日の2日間、東京都新宿区の戸山サンライズにおいて、ルイ・ブライユ生誕200年並びに石川倉次生誕150年を記念して点字ビッグイベントを開催する。記念式典・記念講演会のほか、点字につい

での作文募集、点字競技会の実施、発展途上国への点字器等の寄贈支援活動などが予定されている。

7. 国立民族学博物館の点字についての企画展への協力について

広瀬浩二郎氏の企画になる点字についての企画展に日本点字委員会として、ルイ・ブライユと石川倉次に関する年表の作成、アジア諸国の点字の紹介、点字楽譜についての解説等の資料を提供して協力する。

8. 田中徹二副会長、WBCの委員に就任

点字についての国際的なデータベースの制作をめざしているWBU（世界盲人連合）は、WBC（世界点字協議会）の再開を企画している。そのWBCの委員として日本点字委員会が推薦した田中徹二副会長がWBU-AP（世界盲人連合・アジア太平洋地域委員会）の代表として就任することになった。

9. 委員の交替と事務局員の補充について

盲教育界代表委員の佐藤智紀子氏（愛知県立名古屋盲学校）は坂井仁美氏（愛知県立岡崎盲学校）に、全国盲学校長会代表の学識経験委員・井口二郎氏（千葉県立千葉盲学校）は座間幸男氏（東京都立八王子盲学校）にそれぞれ交替した。また、事務局員として奥野真里氏（日本ライトハウス）が木塚泰弘会長の依頼を受け総会で承認された。

国立民族学博物館の企画展「点天展」開催

大阪府吹田市の国立民族学博物館では、点字の考案者ルイ・ブライユの生誕200年を記念した企画展「点天展」を開催している。会期は2009年8月13日～11月24日（水曜日休館）、開催時間は10時～17時、会場は国立民族学博物館常設展示場内。

点字には、六つの点の組み合わせであらゆる文字情報に対応できるすばらしさがある。少ない材料から多くのものを生み出したたかな創造力、常識にとらわれないしなやかな発想を「点字力」と呼び、小さな点が天なる宇宙へと広がる点字の魅力を探ろうとする企画展が「点天展」開催のねらいです。

出展品は極めて多彩で、ルイ・ブライユを描いた世界各地の記念切手、ヘレン・ケラーの点字蔵書、世界各地の点字器、第二次世界大戦前の点字教科書・地図帳など。日本点字委員会が作成した「点字を読んでみよう！」が受付で配付されています。